

鳥羽市議会行政常任委員会会議録

令和3年6月25日

○出席委員（13名）

委員長	浜口一利
委員	南川則之
委員	片岡直博
委員	河村孝
委員	中世古泉
委員	坂倉広子
委員	世古安秀

副委員長	瀬崎伸一
委員	濱口正久
委員	奥村敦
委員	山本哲也
委員	戸上健
委員	坂倉紀男

○欠席委員（なし）

○職務のために出席した事務局職員

議事総務係	岡村なぎさ
書記	

(午後 1時30分 再開)

○浜口一利委員長 皆さん、こんにちは。本会議に引き続きご苦労さまでございます。

ただいまから行政常任委員会を再開いたします。

先日の会議の中で、昨今のコロナ禍も含めて市内状況も大きく動いている、そのような中で上程された議案だけ審議するだけの委員会では、その役割は果たせないということを私言ってしまいまして、皆様方のご理解をいただいて、今日は本会議の後、時間をいただきました。

本日、協議いただく事項については、お手元に配付の事項書のとおりでございます。

まず初めに、今後の委員会で取り扱うテーマについてであります。

これについては、調査研究したいテーマについて委員の皆様より意見を伺いたいと思いますが、まずそのようなことから始めてよろしいでしょうか。

まずテーマを出していただいて、その中で検討していただいて、その後、班を決めていただくというような形で今日は協議していただきたいと思いますので、どうかよろしく願いをいたします。

テーマをどんなふうに言うてもらおうかな。そっちのほうから順番に言うてもらおうか。

挙手でお願いします。テーマ。挙手で。

はい。

○坂倉広子委員 班はこれから分けていくんですけども、一つ研究班として1分科会とか2分科会というような名前でしたいただければどうなのかなと思うんですけども、班っていっぱいいろいろありますので。

○浜口一利委員長 当然、その後テーマを決めて班分けしていただいたら、名前についても1班とか2班とか、何かそんなことよりも、以前も何かマリンタウンの委員会のような感じのがあったわけなんですけれども、委員会ではなくして何々研究会とか部会とかというようないい名前があれば、また案をいただきたいと思います。

○坂倉広子委員 はい、分かりました。

○浜口一利委員長 まず、テーマから決めていきたいと思いますので、挙手でお願いします。

濱口委員。

○濱口正久委員 この前からいろんな予算案とかで出てくるデジタル化について、いろいろ取り沙汰されてくる機会が今後増えてくると思うんですよ。ですので、DXを含めて、デジタル化についてちょっと先進的に取り組んでいるところについて、勉強してみたらどうかなとは思うんですけども。

○浜口一利委員長 全てにおいて……

○濱口正久委員 関わってくると思うんですけども。ギガも含めていろんなことも、行政も含めて。

○浜口一利委員長 まず、皆さんにテーマを出していただこうかな、先。

他にございませんか。

(「同じ意見ならよろしいな、言わんでも」の声あり)

○浜口一利委員長 奥村委員もデジタル化ということでよろしいんですか。

奥村委員。

○奥村 敦委員 正久委員と同じなんですけれども、ただ、文科省の掲げているのはデジタル社会に向けたとい

う構想を持ってきているので、まずGIGAスクール構想に関しては教育におけるデジタル化、あとDXについてはデジタル社会とか、あとは新たな日常におけるデジタル化という3分野に分かれているものですから、そこら辺を同じ意見ですけれども、デジタル社会に向けた構想についての視察をという形で考えております。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 私、以前に言ってきたんですけれども、常任委員会が以前二つ分かれていた小学校、中学校、幼稚園は教育ですし、子育ての部分だと民生という形で分かれていたんですけれども、総合的な子育ての分野で私も子供の権利というのか、そういうふうなところで研究をしていきたいというのは、学校なんかでもちょっと少子化になってきていて、学校の人数も減ってきていて、一つの統合問題もあると思いますので、いやいや知らなかったわというんじゃなくて、もうやっぱりこういう総合的な……

○浜口一利委員長 子供っていうのも範囲広くなってくるわけやもんで。何かこのことをと言うたほうがええかな。

○坂倉広子委員 このことを言うたほうがいいですか。

○浜口一利委員長 言うたほうがええかな。

○坂倉広子委員 そしたら、子供の権利について。

○浜口一利委員長 子供の権利について。権利。

○坂倉広子委員 そこの中にはいろいろ調べていくと、やっぱり虐待とか、そういう少子化という観点から。

○浜口一利委員長 それはどんな、子供の権利というよりどういう表現がええ……

(「子供の権利で」の声あり)

○浜口一利委員長 権利で、それでええ。子供の権利。よろしいですか。

他にございませんか。

河村委員。

○河村 孝委員 1個じゃなくてもいいんですよ、アイデア出しなんで。

○浜口一利委員長 そうです。

○河村 孝委員 三つばかりあります。都市計画及びまちづくりについて。ちょっとテーマが大き過ぎるんですけども、具体的などころでいえば、離島架橋、あと駅周辺の再開発というのは、もう私は進めるべきだと思っています。ほんで、調査研究して政策提言をするというところを視野に入れるならば、その辺をしっかり調査して、自分たちも勉強して政策提言まで持っていきたいというのが1点目。

2点目が、以前、予算委員会でもお話しさせていただきましたけれども、上下水道施設及び設備の今後の在り方について調査研究をして、政策提言まで結びつけたいというのが2点目です。

3点目が遊休未利用地の有効活用、開発公社持ち分も含むところで、具体的に言うと松尾工業団地なんかをどうするんやとか、そういったところの調査研究をして、政策提言まで結びつけたいところのその3点を私はお願いしたいなというふうに思います。

以上です。

○浜口一利委員長 他にございませんか。

世古委員。

○世古安秀委員 私のほうでは、やっぱり鳥羽の経済の活性化が一番大事だろうということで、具体的には企業との連携による経済の活性化というふうにはちょっと記していただきたいと思いますが、なかなか鳥羽市の力だけで経済を活性化するのは難しいので、様々な企業との、現在も進めておりますけれども、連携により鳥羽市の経済ももっと活性化するような方策を研究したらいいのではないかなということが1点と、もう一点は、やっぱり教育、子育ても含めてですけれども、教育の充実というところで、鳥羽市の特色ある教育を進めるためのいろいろな研究をしたらどうかというところでございます。

2点だけちょっと提案させていただきます。

○浜口一利委員長 坂倉広子さんの出した意見と重なっているような部分かな。

(「そうですね」の声あり)

○浜口一利委員長 他にございませんか。

戸上委員。

○戸上 健委員 2班に行政委員会は分かれるわけですがけれども、展望としてこの1年間でというか、3月までですから10か月ぐらいですけれども、各班で政策条例を1本つくるということを目指したらどうかというふうに思うんです。議会基本条例でも施策提案、さっきも河村さんが政策提言ということをおっしゃいましたけれども、例の議会改革全国ランキングでも、政策条例を何本上げたかということも一つのカウンターの要因になっております。最近議会としての条例化というのはないように思うんです。

それで、さっき広子さんが提案した子供の権利の問題で、一般質問、広子さんもなさいましたけれども、子供条例を鳥羽市もつくると。ほいで執行部もそれ手がけているようなんやけれども、議会としても市民のいろんなパブリックコメントも集めて、市民との公聴会も開いて、そして議会の提案する鳥羽市子供条例というのも、先進地も視察して調査もしてというふうに思うんですけれども、それを1本目指したらどうかというふうに僕は思います。

○浜口一利委員長 ありがとうございます。市の子供条例を目指す。

あまりようけ出してもうても、これ大変なことになってくるしな。この中で決めるというのも、大変な感じもするわけやけれども。もうちょっと私は単純明快に、このことについてというような意見が出るかもというような予想もしていたんですけども、何かこう見ると複雑に回っていくような、何か考えていかなあかんような、そのくらいのテーマが出たような感がいたしますけれども。

(「委員長は何かないんですか」の声あり)

○浜口一利委員長 いや、私はもう簡単に四つばかり考えとったんやけれども、最近、磯焼けの問題がクローズアップされているわけなので、そのことを調査したり、勉強会開いたりしながらということと、当然、コロナ禍からの地元経済の回復策というのはどんなものがあるのかなという点とか、また、市長がいつも言うんですけども、地域共生社会についてというような何か大きなテーマがあるということ、議会としてもそのことも勉強してもいいかなということと、それと、四つも考えたんやけれども、海の博物館もやはり市に移管されてから、結構子供たちは見物する人も多くなったようには聞こえてきますけれども、いろいろこれからどのように鳥羽市の持ち物として考えていくかということもいいかなって、そのような何か簡単なテーマでというよう

なことも考えていたわけなんですけれども、そのこともこの中には含まれていくような感じもするわけなんですけれども。

ほかにテーマ、よろしいですか。どう、何かある。これ決めるだけでも大変やな。

はい。

○山本哲也委員 ここに上げる段階で、どこまで絞るかというところになるのかなというふうにも思うんですけども、例えば自分もデジタル化とかという部分は挙げてもらおうかなと思っていましたし、都市計画とまちづくりですとか遊休未利用地の部分、あと企業連携によるところとかというところ、大きくざっくり言うと経済の活性化とか、そういったところの枠の中には何とか無理やりでも入れられることはできるのかなと思うんで、そこをどこまで絞っていくかというところは、あれなんかなと。絞ってもこういうふうな、挙げてもらったような項目でやっていこうかとかというふうにするのかというところも決めたほうがいいのかとも思いますし、ここまで深く皆さんでテーマを上げていただいておりますとすれば、自分もその辺は。

例えば企業連携による経済活性化というふうに世古委員おっしゃっていただきましたけれども、ここも民間との連携による課題解決とかというように形にしときますと、それも経済活性化であったり、いろんな課題、地域の課題とかというのを行政だけでなく民間の力ですとか、いろんなアイデアをお借りしながらできるのかなと。その中の一つは経済活性化でもあるしというところもあるんで、一つは企業連携とかというテーマでもいいのかとも思いますし、その辺が遊休未利用地とかにも関わってきたりですとかというところにもなるかなとも思いますんで、どこまでどう設定するかというところが多分一番難しい話になるのかなとも思いますけれども。

○浜口一利委員長 テーマについてどのような、出していただいたんですけれども、山本委員の言われるように、この中で共通する部分というのをちょっとまとめて、もうちょっと絞った中で考えていくという方法でもいいかなとは思いますが。

ほかにテーマがあれば、この中で共通する部分というのがあるように思いますけれども。

まず、デジタル化社会に向けたというのは、これからの大きなテーマになり得ると思っておりますけれども、その中に子供の教育の部分というのも関連してくるわけやけれども、どのような形に発展させていくかというのは、その班の調査研究の流れの中でおのずと含まれていくような感じもするわけなんですけれども、一つこれを挙げればそんな方向性でもいけるというような。

それと、経済の活性化、民間企業の話でも、河村委員の言われた都市計画とかそのような形の中に含まれていくのか、どっちがどうか分からんけれども、そのようなことになっていくとは思いますが。

(「そういうこともある」の声あり)

○浜口一利委員長 当然あると思うんで。そのようなところでまとめていただこうかな。

今そうせなしゃあない。これから幾つも上げてみさ。

河村委員、ええ案があったら。

○河村 孝委員 一応、委員長の思案として、班分け2班という提案が次の事項に出ているんですけども、これだけのテーマが多くなって、場合によっては私は3班でもいいのではないのかなというふうに考えるんです

けれども、皆さんにその辺をご議論していただければなと思うんですけども。

○浜口一利委員長 先に私はテーマ二つぐらいに分けて、2班ぐらいでいいのではないかというような提案をさせていただいたんですけども、テーマを出していただいたらもういっぱい出てきたという中で、テーマによって3班というのも当然あり得ることですし、そのほうが効率的にいくかと思しますので。

戸上委員。

○戸上 健委員 確認なんですけれども、班構成とテーマの関連性です。

各班で1テーマを来年の3月まで極めるというか、調査研究、提言まで持っていくという考え方なのか、それとも2班に分けて、それぞれの班でテーマは幾つでも構わんと。班で好みのテーマをみんなで決めて、それを勉強、研究していくという考え方でしょうか。委員長の所見は。ちょっと示していただきたいんですけども。

○浜口一利委員長 いや、私は2班で一つずつのテーマでって、さきの会議の中で提案させてもらったんですけども。

○戸上 健委員 なるほど、分かりました。

○浜口一利委員長 今日、意見を出していただいたら、とても二つの班ではちょっと何かテーマが多過ぎてというところがあるんですけども。

○浜口一利委員長 いやいや、3班に分けて追求していただいてもいいのかなというのをここで決めていただければいいと思います。二つに班に分けてという、三つか四つのテーマを研究するというのが、どっちがいいか、ちょっと。

山本委員。

○山本哲也委員 何らかリンクはしていると思うんですけども、今、挙げてもらつとるやつを分けて、じゃそれぞれの班でってしても、まあまあ結構なボリュームがある内容やと思うんですよね。結局、調査も幅広くその分なってしまうし、研究する材料もすごくその分増えてくるということを考えると、これだけ挙げていただきましたけれども、ある程度委員会として絞って優先順位つけながら、おっしゃるそれがじゃ2班なのか3班なのかということかなとは思いますが、さすがに全部は多分この短い期間でゴールまでというくと、ちょっと難しいんじゃないかなと思うんで、僕はある程度皆さんのご意見伺いながら、優先順位つけるというのはありなんじゃないかなというふうに思いますんで、そうして……

○浜口一利委員長 いや、優先順位つけてもらわな、ちょっとようまとめんと思う。

○山本哲也委員 やと思うんですよ。ほんで、各班で一つどれかに絞って対応してもらったほうが、成果としては上がるんじゃないかなというふうに思いますんでいかがでしょうか。

○浜口一利委員長 やはりこのくらいテーマ挙げてもらつと、なかなか絞ることも大変なんですけれども、できるだけ共通するものは絞り込んでいただいというような考え方でいきたいと、そうしないといけないような感じもするわけなんで、この中で共通する部分があればもう重ね合わせて、どうかな。

デジタル化というのは、これもう一つのことになっていくのかな。

(「中身としては 各市の見てますけど、かなり広いと思います。時短のDXもありながら 介護のDX、いろいろあるんです、DXといっても。だからデジタル化を頭にして、

その細分は結構されていくので。1回の視察とか1回の調査ではなかなか済まないと思いますので。下のほうの枝葉はたくさんあると思います。1本にさせていただきたいんですけど。これはこれ一つで」の声あり)

○浜口一利委員長 これはこれ一つでという。

(「これに二つも三つもとなってくると、多分大変になると思いますんで」の声あり)

(「デジタル化とデジタル社会に向けた構想というのは一つ」の声あり)

○浜口一利委員長 そうやな。

(「その結果、民間との連携とかになってくるかもしれへんし、その辺は結果としてついてくるところなんかというのがある」の声あり)

○浜口一利委員長 やっぱりそんなところに狙っていかなあかんというようなところもあろうかと思いますが、流れの中で。

(「課題としてはデジタル化という課題が一つ」の声あり)

○浜口一利委員長 それでは、これは一つ決めるということによろしいですか。もう早く決めたいと思います。

(「はい」の声あり)

○戸上 健委員 委員長、ごめん。確認したいんですけども。

蒸し返すようですけども、班構成で3班に割るなら議会改革と一緒にですけども、ああいう形で割るのか、それとも自分がやりたいテーマ、僕は子供条例の制定でやりたいという希望なんですけども、やりたいのをこの指止まれでそこに4人なり5人なりが集まって1班というふうにするのか、それはどちらが優先するんでしょうか。

○浜口一利委員長 先日は得意な部分に行ってもらえればいかなと私が提案させてもらったんですけども、まずそれを決める前にやっぱりテーマを決めましょうよ。

○戸上 健委員 テーマを決めて。

○浜口一利委員長 テーマを決めてから班分けを、今、戸上委員の言われたように得意分野に行くものか、三つか二つになるか分かりませんが、分けるか。現状では、そのようなことのほうが分けやすいと思うんですけども。私的には、もう得意なところに行ってもらえればええかなとは思っていますけども。

まず、テーマから先をお願いします。

まず、デジタル化。

世古委員。

○世古安秀委員 委員長も言われておったやっぱり今現在の鳥羽市の経済状況からして、本当にコロナ禍で非常に低迷しておるといところ、下から2段目にあるコロナ禍からの経済回復というのをやっぱり今現在の鳥羽市の状況からいえば、最重要な課題になるんじゃないかなというふうに、これ一つ入れてもらったらいかなというふうに思います。

いろいろな方法がありますけども、様々な方法、どう経済の回復を図るかという点、やっぱり鳥羽の観光関連もそうですけども、企業とかいろんな経済回復というのが、まず一番のやっぱり市民の生活を支える本ですから、経済というのは。そういう意味で、コロナ禍からの経済回復というのを一つ挙げてもらったらい



いんじゃないかなと。

○浜口一利委員長 当然、都市計画とかその辺も絡んでくるもんな。

河村委員。

○河村 孝委員 今から3月末にかけて調査を、研究をして、それを政策提言までに結びつけていくとなると、このコロナの状況もかなり変わってくる、ワクチンが行き届いた中でのところと。当然、経済施策は打っていくわけですよね、もう。国も県も自治体も。

○浜口一利委員長 鳥羽市もな。

○河村 孝委員 もうだからちょっとコロナというところの、その後の経済回復となってくると、時期がどうなのかなと。政策提言に持っていく段階において、時期がどうなのかなというところが。世古さんおっしゃるのも、本当に今すぐやらないかん話だとは思いますが、3月末までにかけて調査研究ということになると、ちょっとタイムラグが出るのではないのかなというふうなところをちょっと心配するところではあるんですけどもね。

(「委員長、よろしいか」の声あり)

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 ごめん、何回も口挟むようで申し訳ないんですけども、ちょっとイメージが僕はもうちょっと定かにならんのです。ということは、河村さんおっしゃったように、来年の3月というか、それを一つの期限として政策提言か条例提案か、そこまで持っていくのか、それとも地域の経済問題をみんなで勉強し合うと、深め合うという段階なのか、それによって僕は全然違うてくると思うんですわ。今まで常任委員会で政策提言まで持っていったというのは、太陽光発電の問題で、これで環境省まで調査に行き、そして富士宮市か、あそこも調査に行き、それで執行部が、環境課、条例提案できるまで、議会としてはイニシアチブを持ってやったというふうに思うんです。

ただ、もう一つ、教育問題では基礎学力向上の政策提言という形で、これは福井に視察に行き、そして北村君中心でしたけれども、基礎学力をどういうふうに鳥羽で高めていくのかというテーマで政策提言したはずなんです。そやもんで、例えば経済振興をどうするかという漠然としたものではなくて、経済の中ではどの分野をこの半年間かけて極めるのかという、そういうテーマの設定の仕方なのかというのをちょっと確認しておきたいんです。

そやで、単なる勉強会で班で自由に議論してくださいと、地域経済活性化の問題ではいろんな分野があるわけやもんで、それを自由に議論してくださいというのか、いろんなそれぞれの班で政策提言を執行部にする、条例提案をするまで一つのテーマで極めてくれというのか、どちらなのでしょう。どちらでもええと、班で自由にそれは班の裁量に任すということなのでしょう。

○浜口一利委員長 今、戸上委員の言われたことは大変重いことやと思います。この行政常任委員会の勉強会かというのの方向性が決まってくるというような意見だったと思うんですけども、私は当初は、今、市内とかホットなニュースというんですか、ホットな今やらなければいけないようなことについて、機動力を持ってそこへ入って調査したりということもいいし、また、委員会とか上程された議案についても、現場へ行って見たりということでもいいのかなとは思っていたわけなんですけれども、皆さん方の意見の中では、政策提案と

というような大きなところへ持っていかうとすると、なかなか動きがどうかというその懸念もあるもので、なかなか難しいところかなと思いますけれども。機動力を発揮していただいてやってもらいたいなところが、私は重きに置いていたところなんですけれども。

○戸上 健委員 なるほど。

○浜口一利委員長 その中から政策提案まで持っていけるものがあればいいのではないのかなというような、私の提案なんですけれども。

○戸上 健委員 なるほど、分かりました。

○浜口一利委員長 それがいいかどうかというのは、また協議していただければいいと思います。

3班ぐらい分けようか、ほんなら。政策提案というのはやっぱり一つにまとめてという方向のほうがええんかな。

(「委員長、いいですか」の声あり)

○浜口一利委員長 河村委員。

○河村 孝委員 じゃ、何のために調査研究するんですかというところになってしまうと思うんですよ。委員会の活発な活動というところを多分、委員長目指していらっしゃると思うんです。ならば、やっぱりそこをしっかりと調査研究をして、戸上さんおっしゃるように、政策提言なり条例の制定というところのベクトルには向いていかないかなと思いますけれどもね、僕は。せっかくやるのであれば、ある程度勉強していく中で、こういうことも提案できるな、こういうことも提案できるなというところは幾つか出てくると思うんですよ。やっぱりそこを委員会が目指すからこそ意味があるんだと思って、僕はそういうふう考えていたんですけれども。

○浜口一利委員長 いや、私も政策提言まで持っていけばええというような、その考え方は同じなんですけれども。

山本委員。

○山本哲也委員 班なり分科会なりという形を取って調査研究して行って、多分スケジュール的に3月の頭か3月の議会が始まるまでに、委員長に対して報告書なりが上がるわけですね。それを受けて、じゃ委員会全体としてどうするかというふうなあれにしていかなあかんのかなというふうに。

政策提言するとかどうこうというのは、分科会だけのあれじゃなくて全体で取らなあかんところやと思うんで、じゃそれが3月の1か月でできるかというとなかなか難しかったりとかするとなると、もう一つ前に倒さなあかんとか、結構スケジュール的にももう新年度始まってこれだけ過ぎてきると、結構タイトなスケジュール。委員会の開催も多くなってくる必要があるかなと思うんで、結構そこも意識してやらなあかんのかなと思うんです。

あくまでも目指すところはもちろん政策提言というところになってくるんでしょうけれども、持ち寄って報告書を皆さんでどう扱うかという検討を行った結果、いろんな方法はあるかとは思って、あくまでも政策提言を目標として調査研究するというスタンスは、持ち続ける必要はあるかなというふうには思いますけれども。

そのスケジュール管理ですとか、じゃ実際、報告書を受けて皆さんで目を通してから政策提言に至るまでの行程というか、何をどこまでせなあかんのかというところは、結構、僕、見とかんと、後々えらいあれになるんちゃうかなと思うんで、とても1か月で、1回の委員会でそれができるとは思いませんので、その辺は決

めたらんとあかんかなと思いますけれどもね。

(「いいですか、委員長」の声あり)

○浜口一利委員長 河村委員。

○河村 孝委員 そういうことであれば、見えてくると思うんですよ。あまり壮大なテーマは今からではちょっと難しいのかなというところ。デジタル化をおっしゃっている方が多いと思うんですけども、じゃデジタル化のどこの部分を捉えて今回はいきましょうよというところまで、ある程度ちょっと絞っていかんといかんのかなというふうに思う。山本委員おっしゃるように、政策提言までいくとなるとタイムスケジュールを何月までに、じゃどこまでに調査を終えなければならないというそのタイムスケジュールを今決めて、すると見えてくるのではないのかな、できることが。そこから逆算して。

所沢、一緒に行かれた方は。所沢、委員会でそうやって分科会つくって、1年に1個テーマをつくって所管事務調査やっていましたよね。専門家の先生たちとも話しながら、一番最後に報告書を出していたと思うんですよ。それが政策提言までなかなかいっていないというのもあったと思うし、報告書で済んでしまうところもあると思うんですけども、なると、もう年度当初からそれが出てこな本当はいかんはずで、3月の段階では来年これにしましょうよと、改選以外のところはもう決めとかないかん話やと思うんですよ。4月から用意ドンで動いていきますよというところの方向性は決めていかないかん。

でも、今回はもう今からスタートで、山本委員言うように3月一月ではなかなか仕上がらんとすると、2月までに調査を終えるところが一つの目安。そこに見合うボリュームの調査研究しかできないのではないのかなと。ましてや議会改革で基本条例さわりにいかないかん、定数で政務活動を自分たちでやっばりまださらに調査研究もしていかないかんというところで、非常にタイトではあると思うんでね。

○浜口一利委員長 テーマ幾つも持ってもちょっと難しいな。

○河村 孝委員 だからそのスケジュールでいけそうなやつ。俺、自分で言うてええんかな。いけやんやんな、俺が言ったやつは。無理やな。

(「委員長、よろしいか。ごめん」の声あり)

○浜口一利委員長 戸上委員。

○戸上 健委員 来年3月というのは一応めどなんだけれども、テーマによって、班によってもっといろいろ深めたいというところは、それにこだわらずに3月超えて、夏に提言をしてもらってもいいという。そこ、柔軟な構え方にしたらどうかというふうに思うんです。

議運で視察したところがそうでしたけれども、柏市も犬山も大体それぞれの委員会は、行政委員会というのは1か月に1回寄って、そしていろいろ意見交換、勉強をしておったというふうに思うんです。僕も議会改革の、僕は3班ですけども、この間寄ってやりましたけれども、僕、本当に勉強になりました。かんかんがくがく同僚議員と膝突き合わせて勉強すると、研究するという機会はあまりなかったもので、今回の行政委員会の班分けというのは、僕は非常に各議員のそれぞれの知識を高めていく上でも、議会改革条例でもそれぞれ頑張れと、やれというふうにならわっていますもので、余計に僕はそう思いました。

○浜口一利委員長 3月というような、途中経過でもいいし、流れの中でということの方法もあるということなんで。

山本委員。

○山本哲也委員 そうなると、やろうとすることは、委員会の中の分科会という名の会派に近いような感じになるのかなと思うんです。2年間という期間を設けて、できる調査をやって、報告をまとめ上げて、まとまった段階で提出する。ほんで、提出したら次のテーマへ移っていくというふうな感じを多分、それが想像できるんですけども、そうなってくると、もう本当にやろうとしとすることはそういう感じなんか、イメージすればそういうふうなことなんかとは思わないで。

となると、先に班分けをしておいて、組んだ人らでテーマを選んでもらって、それでやってもらいたいなこともありなんかとも思いますし、そのスタンス、あくまでも期限決めてここまでに持ってこいよとするのか、調査ができた、報告できた段階で報告書上げてきなさいというんかで、やり方もすごく変えることもできるし、ほぼさっきも言うたんですけども、会派に近い動きとかという感じにもなってくるから。

○浜口一利委員長 部会やな。

河村委員。

○河村 孝委員 ならば、もろもろ意見はあるでしょうけれども、効率的にやるのであれば、今ある議会改革の3班を一つに、それをそのまま行政常任委員会の班分けにも使って、それやったらそのメンバーが寄ったときに、議会改革の話を1時間やりましょうと。その後も、もう一時間を次は行政の自分たちのテーマで決めたことをやりましょうと。効率的には、回そうと思ったらその3班でいくのがよいのではないのかな。だからそれが班が違ってくると、スケジュールを合わすだけでも大変になってしまう。

○浜口一利委員長 一番効率的なのはそうかな。

(「既にあるんでね」の声あり)

○浜口一利委員長 3班に分けてやりましょうか、ほんだら、もう。そうしましょうよ、もう。

(「もう班長も決まっていますから」の声あり)

○浜口一利委員長 班長も決まるとるし、早い。

はい。

○奥村 敦委員 おっしゃることはそのとおりです。効率が一番よろしい。

ただ、興味がない、基本条例というのは我々の基本ですやんか。だから自由に全部それは理解しとらないかんことやけれども、今回のテーマは例えばデジタル化について興味がないといたらおかしいんですけども、私は向こうのほうがあえよねって、子育てとかそういうことを主にしたいよねという人がデジタル化のほうに行ったときに、意見として集約するのがちょっと難しい気がしますので、3班に分けるのはいいと思うんですけども、基本条例と一緒にやっていくというのはどうかなというふうに。

(「議会改革のほうの班をシャッフルしたらええんちゃうん」の声あり)

(「シャッフルなら、そうですね」の声あり)

○山本哲也委員 一緒に班にしましょうや。それやったら奥村議員言うように、議会基本条例のほうは全員すべからくから同じようなテーマでやるとるわけなんで、誰がメンバー変わっても一緒なんですな。だからこっちでそれぞれ興味が――すみません、マイクなしで――あるところに自分が行って、仲間と興味あるメンバーで濃い研究をして、それと同時に議会基本条例もその班でやってもらうといいのかな。それぞれもうちょっと

動き出している班もありますけれどもね。

同じ班にするんやったら、こっちをベースにしたほうがいいのかと思いました。奥村委員の言うとおりに。

○浜口一利委員長 余計、難しなってきたやんか。

(「もう6月ですよ」の声あり)

○浜口一利委員長 6月やもん。3月政策提案というのは、ちょっと離れてもうてというほうがいいのかも分からん。当然、目的はそのような形でいけばいいけれども。

(「いや、もう班長がうんと言うてくれるんなら。今回はね」の声あり)

(「今回だけ効率的にいて、次回からもう一回ちゃんとテーマごとに分かれて」の声あり)

○浜口一利委員長 まず、言いますよ。3班でいきます。テーマをこの中でできるものというのを、これ以外でもええけれどもな。この中に沿ったような感じで。

(「班で決めてもうたら」の声あり)

○浜口一利委員長 班で決めてもらおうか。

(「班で決めてもうたらどうですか。出たやつを参考に」の声あり)

(「もうほんなんやったら決まらへんですよ」の声あり)

○浜口一利委員長 決まらん。ということは、もう決定はせんでもええと思うわ。これでもう今日の会議はええと思うけどな。

(「ケツだけどうするか決めて、スケジュール的なあれを。3月までにするのか、それとも戸上議員言うように、ちょっと調査完了の段階で報告書を上げてもらうのかとかという部分。あくまでも3月ゴールを目指すのか、そこだけ意識は統一しとかんとあかんのかなと」の声あり)

○浜口一利委員長 この件についてどうですか。

3月末とこだわらずという考え方と、3月末にというような。もうそれより早いのかも分からんしということもあるし。

(「委員長」の声あり)

○浜口一利委員長 はい。

○坂倉広子委員 経過報告みたいな、やっぱり結論でもうここまでまとめましたとなることもあるだろうし、難しい、まだこの経過ですということもあると思うので、ちょっとそこは柔軟な対応で。結果発表みたいな。どうつなげていくかみたいな。答えが見えてくるまでちょっと柔軟にというたらおかしいけれども。

○浜口一利委員長 まあ、テーマ決めて、話をいろいろ調査していく中で、執行部が上程された案件とまたマッチして、こんなことをというような活用もできるか分からんし、途中経過をわざわざ発表するというのではなくてもいい思うんですけども。後ろは切らないでいきましょうか。

(「ある程度の目安はあったほうが」の声あり)

(「いいですか」の声あり)

○浜口一利委員長 はい、どうぞ。

○山本哲也委員 後ろ切らへんと、タイムラグが班によって、片方はじゃ1月に報告書出てきました、でも片方は7月いっぱいまでかかりましたとかとなってくると、ここの先に報告書出した班はまた次のあれを選んで進んでいくのを目指すべきなのか。

そやで、1回どこかで、今回暫定的なスタートを切るんであれば、線を引くんやったら3月で切って、4月からじゃ1年かけてどうしようかという話ができるんかなと思うんで、とりあえず今年度は3月でどういう対応を取るかというのを目掛けて、動いてもらったほうがいいんかなとは思うんですけれどもね。その後、やってみてどうやったか、じゃやっぱりあれだけの期間じゃ短いよねとかという声もまたいっぱい出てくると思うんで、ほれやったら、またそういう対応を取っていただければいいのかなとは思うんで、どうでしょうか。

○浜口一利委員長 一応、3月めどにということで仕事を進めていただこうかな。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 もう3班で。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 ほんで、この中でテーマ、もうこの中以外でもいいけれども、3班でテーマについて相談していただくということでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(「異議なし」の声あり)

○浜口一利委員長 3班でお願いいたします。

(「かぶってしまってもいいんでしょうか」の声あり)

○浜口一利委員長 テーマ。

(「かぶってしまってもいいんでしょうか」の声あり)

○浜口一利委員長 いやいや、かぶっているのはあかんやろう。

また決まった時点で私のほうまで報告していただいて、事務局でもええな。報告してもらって調整という形で。

(「今、決めれないんですか、集まって」の声あり)

○浜口一利委員長 時間あるか。よろしいか。

○山本哲也委員 じゃないと、班長から報告してもらって、結局またかぶってしもうてあかんだわいうて、また集まったもったりとかというのが出てくる話。今、全員いますんで。班の中で希望を聞いて、そこの采配だけ決めたほうがいいかなとは思うんですけれども。

○浜口一利委員長 今、山本委員が言われたようにしましょうか。

(「はい」の声あり)

○浜口一利委員長 3班に分かれてテーマ決めていただきます。お願いします。

休憩します。

(午後 2時20分 休憩)

---

(午後 2時30分 再開)

○浜口一利委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開したいと思います。

先ほどテーマを決めていただいて、班分けという話もさせていただいたんですけども、班分けにつきましては、議会基本条例で班分けしているその班でお願いするというので、それでそれぞれにテーマを決めていただきました。私の下にテーマについて報告がありますので、皆様方に報告させていただきます。

まず、1班が都市計画、まちづくりについてということで、調査研究をお願いしたいと思います。

それと2班、デジタル化についてということで、詳細については班で決めていただくということで。

それと3班、遊休未利用地という報告があるわけなんですけれども、これも幅が広がっていくような感じがしますが、班の中でいろいろ決めて、作業にかかっていたらと思っております。

それともう一点、先ほどちょっと少し副委員長のほうからも話もあったんですけども、調査が進む中でどうしてもそっちのほうにもちょっと私も加わって話をしたいなという人も当然出てくるかも分かりませんので、そのあたりは今日どうのこうのということではなくして、その班で話をしながら、それも可能であるというぐらいの前提で少しお願いしたいかなと思います。

例えば視察とかというときになったらそこに加わるとか、ちょっとこのあたりは私もこうしたいなという意見を持っているということであれば、その中に入っていってもらってというような、そのような柔軟な形の中で進めていただければと思っておりますけれども、そういうことでよろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○**浜口一利委員長** それでは、今日は突然の提案と、また皆様方のご理解をいただいて、今日は大変進んだ会議ができたように思います。

先ほどから2人分働けと言っていますけれども、何か3人分働けと言われそうやと言っていますけれども、そのとおりなんでよろしく願いいたします。

本日はどうもご苦労さまでございました。

(午後 2時33分 散会)

---

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和3年6月25日

行政常任委員長 浜 口 一 利